

先輩から⑥「学級目標の設定」

学校の教育目標を達成するために、学級経営（学習指導や生活指導、学級集団づくり、教室経営、学級事務など）を行うことは、特別支援学級でも同様です。児童生徒一人一人の学習面・生活面の課題を把握し、達成感や満足感を感じさせながら、資質や能力を高めていく学級経営の柱になるのが学級目標だと思います。学級目標は、学校や学年の教育目標を受け、児童生徒の願いや人的構成を考慮して設定します。学級目標の設定をする際は、以下の四つの観点で考えると良いと思います。

- ◇基本的な生活習慣の確立に関すること。
- ◇日常的に必要な学力・体力・技能の獲得に関すること。
- ◇豊かな情操や創造性・社会性の育成に関すること。
- ◇学び合い・心を伝え合う集団の組織に関すること。

また、学級目標を設定する際は「目指す児童生徒像」について具体的なイメージをもつことが大切です。年間を通した学級目標のほかに月ごとの学級目標を設けて指導に当たる場合、整合性がとれ、ぶれることなく連動した形で教育活動を展開できることに結び付きます。このことは、児童生徒の「短期目標・中期目標・長期目標」を決めていくことの助けにもなります。

※「目指す児童生徒像」の例

- ▽ 自ら学び、考え、行動する児童生徒
- ▽ お互いを尊重し、思いやりと仲間意識のある児童生徒
- ▽ 社会の一員として自立し、規範意識のある児童生徒

学級目標設定の参考になるかもしれませんが、具体的な例を示してみたいと思います。

学校の教育目標は、「やさしく→思いやりのある豊かな子、かしこく→自ら進んで学び取る子、たくましく→心身ともにたくましい子」という想定です。

学校の教育目標を受け、学級経営案の学級目標を以下のようにしました。

- ①友達と仲良く遊び、「良いこと、悪いこと」の区別をしっかりと身に付ける。
- ②友達と協力する中で、友達を理解する気持ちを育てる。
- ③生活に密着した「ことば・かず」の力を育てる。
- ④一人ひとりに応じたコミュニケーション能力を高める。
- ⑤日常生活習慣を確実に身に付ける。（排せつ、着脱、食事、早寝・早起き、学校の準備等）
- ⑥体をたくさん動かし、体力を付ける。

これを、児童生徒に分かりやすく示します。

①から⑥までを含んだスローガンとして「じぶんのことはじぶんでやろう」を教室前面に掲示し、児童生徒が自分たちの目標として、常に見て意識できるようにしました。

※学級目標に対する児童生徒の意識が薄くなったときに、壁に掲示していた学級目標をはがして黒板に貼り、「みんなで決めましたね」と問い掛けると、大変有効だったことがあります。掲示の仕方も指導方法の一つであり、工夫が必要です。

より良い学級目標を設定するためには、児童の実態把握と分析が欠かせません。客観的・多面的なアセスメント（児童生徒に関する理解のアセスメントや支援のアセスメント）を生かすことが大切であると感じます。また、学校内に他の特別支援学級がある場合、その学級の目標と自分の学級の目標を摺り合わせる必要も出てくるかと思います。

ポイントを押さえた学級目標の設定を心掛けてください。